

岐阜農林事務所の普及活動状況

平成29年1月31日現在

今月の重点活動

■祝だいこん 反省会を開催

1月20日、JAぎふ則武支店において、祝だいこんの反省会が開催され、生産者など約50名が参加した。

今年は、は種後の10月に雨が多かったこと、水はけが悪いほ場での滞水が目立ったことなどから、長さ、太さのバラツキが大きい年となり、出荷歩留まりも74.4%に留まった。

昨年12月の目揃会の時には、規格表に合わないものは出荷しないよう徹底が行われたが、実際は規格外品の混入や選果選別の個人格差などクレームとなる事案が散見された。また、出荷期間中、気温が高く推移したことなどから、出荷初日から黄葉、赤葉の混入が目立つなど課題が残った。

農業普及課からは、今年の生産・出荷上の課題とその対応策や大阪近郊産地の出荷動向などの情報提供を行った。農業普及課では、今後も祝だいこんの高品質安定生産に向け、支援を継続していく予定である。
(園芸産地支援第一係・近藤 勝)



【反省会の様子】

活力ある新産地づくり

■ブロッコリー 順調な年明け出荷に向け栽培研修会を開催

JAぎふブロッコリー生産連絡協議会では、1月17日から20日にかけて、各地域単位で栽培研修会を開催した。

今年度、品種選択や品種特性の周知など、年明け出荷量を増やすための取り組みを行ってきており、農業普及課では、少しでも商品化率を上げるため、草勢維持のための診断ポイント、病虫害防除や降雪後の対策について指導した。

ブロッコリーの出荷は、気温が上昇する2月中下旬にピークとなる見込みである。
(地域支援第一係・稲葉千佳)



【研修会の様子】

多様な担い手づくり

■土地利用型営農組織 環境にやさしい農業の取り組みを支援

羽島市では、土地利用型の2法人1営農組織が、環境保全型農業直接支払制度に取り組んでおり、特別栽培米を生産するとともに、全国共通の取り組みとして位置付けられている堆肥の施用を行っている。

1月25日、平成28年度の実施状況を確認するため、市担当者と堆肥を施用しているほ場を巡回した。農業普及課では、毎年土壌診断に基づく施肥設計や肥培管理について指導しており、いずれのほ場でも堆肥が適正に施用されていることを確認した。

農業普及課では、今後も特別栽培米の高品質安定生産に向けた指導を行っていく予定である。
(地域支援第二係・今井啓司)



【堆肥散布の打ち合せ】

売れるブランドづくり

■飼料用米 ICTを活用した農業経営体の事例発表打ち合わせ

1月19日、県庁において、本巢市の農業生産法人がICTを活用して飼料用米生産等の経営管理

効率化に取り組んだ事例について、関係者と打ち合わせを行った。当経営体では、今年度からICT技術を導入しており、その事例を1月31日に開催される「自らの経営と地域農業を守る新しい稲作セミナー」において発表することとしている。

農業普及課は、当経営体が準備した発表原稿の内容について、助言指導を行った。当日は、「新たな経営管理の挑戦」と題して、飼料用米の低コスト化に向けた取り組みを中心に発表を行う予定である。

(地域支援第三係・岡田隆史)



【事例発表の打ち合わせ】

■いちご 共進会地方審査を実施

1月12日、県いちご共進会の地方審査が、真正支部を皮切りに始まった。当審査は、岐阜農林事務所とJAぎふの担当者が審査員となり、管内の支部ごとに順次実施し、1月26日に終了した。

今年は、生育のバラつきが大きく、ハダニ類や灰色かび病などの病害虫の発生が多い状況であったが、しっかりと栽培管理がされているほ場も多く確認できた。

農業普及課では、審査結果を取りまとめ、県審査への推薦者を決定するなかで、高単収・高品質ないちごを生産している出品者の栽培技術などを収集し、いちごの安定生産に向けた栽培指導に役立てていく予定である。

(園芸産地支援第一係・小島康平、三和浩一、松浦香絵)



【共進会地方審査の様子】

■えだまめ 平成28年産「岐阜えだまめ」のは種始まる

1月25日、岐阜市菅生のハウスで、岐阜えだまめのは種が始まった。ハウス組合の生産者8名が、育苗に必要な電熱線などを設置した後、育苗箱30箱に品種「福だるま」の種子約27,000粒(約20a分)をは種した。

10日ほど育苗した後、本ぼへ定植し、4月下旬頃には初収穫ができる見込みである。ハウス組合では、約1週間おきに種まきを行い、3月上旬頃まで共同で育苗管理をしていく予定である。

今後、農業普及課では、高品質安定生産に向けた栽培研修会を行い、栽培管理などの徹底を呼びかけていく予定である。

(園芸産地支援第一係・川部 知)



【は種作業の様子】

住みよい農村づくり

■瑞穂市学校給食野菜生産グループ・柿りん 地元野菜・加工品を使った給食メニューづくり

12月27日、穂積中学校の生徒3名が、岐阜県学校給食会「中学生学校給食選手権二次審査」に「岐阜・瑞穂から鶏ちゃん給食 穂積JHSL」と題する献立名で挑戦した。

3名は、11月には献立に使用する柿ジャム製造グループ「柿りん」を訪れ、研鑽を積むなど努力を続けてきた。また、当日使用した野菜は、瑞穂市学校給食野菜生産グループから提供され、惜しくも上位入賞とはならなかったものの、積極的に献立やプレゼンを考案するなど、食育の効果が現れた活動であった。



【中学生のプレゼンの様子】

農業普及課では、今後も野菜生産グループ・柿りんの活動支援などを行っていく予定である。

(地域支援第三係・横田京子)